

令和3年度 自己評価書

学校名	和歌山市立貴志南小学校
校長氏名	寺上 円女
作成日	令和 4年 3月 11日

1 教育目標

一人ひとりの子供の主体性・創造性を養い、心身ともに健康で、豊かな人間性や社会性のある子供の育成をめざす

2 本年度の取組についての評価

	地域とともにある学校	健やかな体の育成	豊かな心の育成	確かな学力の向上
指標	県学習到達度調査等の無答率の改善【県平均】 「学校での勉強がわかる」【評価アンケート児童85%】	「わたしは学校が楽しい」【児童95%】 「命の大切さや社会の決まりについて教えてもらっている」【児童95%】 ※評価アンケート ・QUの学校生活満足群【85%】	・朝ごはんを食べた【児童95%】（生活調べ） ・積極的に運動を行うよう計画し、実践する【教師95%】	・学校の様子がよく伝わった【HP閲覧数1年間に10000回】 ・地域学習を学年に応じて1回以上行う【教師100%】
重点目標【P】	◎基礎・基本の確かな定着 ◎子供主体の授業の推進 ○家庭学習の定着 ○読書活動の推進	◎いじめの未然防止、早期発見 ◎インクルーシブ教育の普及 ○道徳・人権教育の充実	◎体力向上の推進 ◎基本的な生活習慣の確立 ○危機回避能力の育成	◎家庭・地域との連携充実 ◎保幼小の連携、中学校区における学校間連携の推進 ○地域の資源活用の推進
取組の状況【D】	・漢字博士試験の実施 ・補充学習の実施（放課後等） ・取り出し等による個に応じた指導。 ・和歌山大学教育実習の受け入れ。 ・ノート指導の共通理解と取組。 ・読書時間の確保。 ・自分の言葉で説明する時間の確保。	・いじめアンケートやQUアンケートの実施による把握と対応。 ・「南の子」において、児童の様子の共通理解を図る。 ・あいさつの励行。 ・人権の授業参観の実施。	・手洗い、うがい、換気、マスク着用の徹底。 ・「元気南っ子貯金」の実施と振り返り。 ・視機能検査を実施し、見え方の困り感について対応する。 ・休み時間の外遊びの推奨。 ・医師等によるアレルギーや心肺蘇生法についての職員研修の実施。	・HPや各種便りを通して学校の情報を発信する。 ・地域人材の活用（ゲストティーチャー、体験活動）。 ・中学校区での小小、小中の連携を充実させる（中学校への見学）。
取組の成果と課題【評価】	・漢字博士試験に向けての取組強化週間を設け、児童への意欲付けを意識して取り組んだ。 ・研究授業は全クラスで実施できた。 ・ノート指導は、どの学年も同じスタンスで取り組むことができた。 ・県学力到達度調査での無回答率が県平均の1.7倍であった。 ・「わたしは学校での勉強がわかる」【80%】	・毎学期のいじめアンケートやQUアンケートにより、児童の困り感の把握に努め対応できた。 ・「わたしは学校が楽しい」【93%】 ・「命の大切さや社会のきまりについて教えてもらっている」【96%】 ・QU学校生活満足群【83%】 ・人権の授業の公開。	・大休憩や昼休みに、外に出て遊ぶ子供は多い。バスケットや陸上については実施できなかったが、体育等では運動量を確保できるよう取り組んだ。 ・手洗い、うがい、換気、マスク着用を徹底し、健康管理に努めた。	・HPの閲覧数は、2月末で約5100であり、目標には遠く及ばなかった。学校の情報や児童の取組の様子などをもっと見てもらえるよう工夫が必要である。 ・地元の農家の方に指導していただき、田植え・稲刈り体験を実施した。 ・昨年度に比べると地域のお店の見学や校区探検に行く機会を多く持つことができた。
改善方法【A】に向けての	・「わかった」「できた」と児童が思えるよう、教員の授業力を高めていく。 ・今後も、すべての児童のために環境や授業のユニバーサルデザイン化を図る。 ・無回答率を改善するための方法を探り共通理解を図る。 ・学用品の統一には引き続き取り組んでいく。 ・漢字の博士試験に取り組む。	・関係機関や特別支援学校等との連携をさらに深め、支援が必要な児童の教育環境を整えていく。また、児童への障害者理解を促進していく。 ・道徳授業の充実を図るとともに、特別活動や総合的な学習の時間などでの体験を通して実践力を養う。評価についても引き続き研究していく。 ・いじめ防止基本方針について、適宜見直し。迅速に対応できるよう教職員で共通理解を図る。 ・いじめアンケートやQUの有効活用の推進。	・アレルギーや心肺蘇生などの研修を引き続き実施する。 ・地震が起こった際には、反射的に身の安全を確保できる児童が増えてきたが、地震だけでなく、大雨等の悪天候についても取り組む必要がある。 ・感染対策のさらなる徹底。 ・バスケットや陸上を可能な範囲で再開させる。	・今年度ほとんど実施できていない学校行事や参観、育友会行事、子どもセンター行事など、オンライン等も活用しながら取り組む。 ・地域素材を教材化し開発するように努める。コミュニティスクールや共育を活用し、地域の方々に学校に来ていただけるよう取り組む。 ・学校の情報をもっと発信する。

3 その他の課題

- ・1人1台のタブレット端末は、どの学年どのクラスでも日常的に使い、必要に応じてオンライン配信も行ってきた。より有効な活用方法について今後も引き続き研修を行い、どのクラスでも同じ水準で実施できるようにしていく必要がある。また、和歌山市内の中で格差ができないように取り組む。
- ・令和3年度もほとんどの行事ができず、地域との関りも薄くなってしまったが、次年度は様々な配慮をしながらもっと活動できるように工夫して取り組む。
- ・地域の方々や学校運営協議会委員の方々などにもっと学校に入っていただけるように取り組む。